様式３

平成　31 年　3 月　29 日

公益財団法人広島市文化財団理事長　様
（東区民文化センター）様

住　所　〒733-0011
広島市西区横川町 2 丁目 3-1　川崎ビル 2F
団体名　舞台芸術制作室　無色透明
代表者職・氏名　代表　　岩﨑　きえ
(担当者)　同上
(住　所) 〒
同上
（ＴＥＬ）090－7892－8925　（ＦＡＸ）
E-mail　a.p.musyokutoumei@gmail.com

事 業 の 終 了 に つ い て

下記のとおり、事業が終了したので報告します。

記

事業名	東区民文化センター舞台芸術促進事業 アートリップル事業 vol.8 「社会と芸術」
日　時	2018 年 6 月 8 日（金）～10 日（日） 2018 年 7 月 28 日（土）、29 日（日） 2018 年 10 月 13 日（土）～14 日（日） 2018 年 12 月 21 日（金） 2019 年 1 月 18 日（金）～20 日（日）
会　場	スタジオ 2、ホール、ギャラリー
入場者・参加者	広島アクターズラボ「五色劇場」試演会【新平和】　**動員数　221 名** コンブリ団その 10【「ムイカ」再び　西へ東へ】　**動員数　78 名** 劇団こふく劇場第 15 回公演全国ツアー広島公演【ただいま】**動員数　150 名** 烏丸ストロークロック俳優ワークショップ【空気を探る】**参加者 14 名** 烏丸ストロークロックと祭【祝・祝日】**動員数　183 名**

実施内容	**■2018 年 6 月 8 日（金）～10 日（日）** **広島アクターズラボ「五色劇場」試演会 2【新平和】** 2016 年 6 月より、無色透明が単体で企画した俳優養成のための長期育成講座「アクターズラボ」のメンバーによる試演会。 当初より「本公演までに 3 年をかける」という事を念頭に年間を通して作品作りを行っており、俳優それぞれが資料を調べ、エピソードを作り上げた。今公演は特にマスコミからの注目度が高く、毎日新聞、読売新聞等に、大きく掲載された。芸術活動を通してヒロシマを伝承していく事に対する注目度の高さを知るとともに、表現者としての責任を改めて各々が感じる結果となった。また、今公演は 2018 年度芸術文化振興基金の助成対象に選出されており、注目度・期待値の高い作品として、東京よりプログラムオフィサーが観劇に訪れたことも、今年度の新たな結果となった。 **■2018 年 7 月 28 日（土）、29 日（日）** **コンブリ団その 10【「ムイカ」再び　西へ東へ】** 大阪を拠点に活動するコンブリ団の再演ツアー広島公演。今作品も「ヒロシマ」を描いた作品であり、2010 年第 17 回 OMS 戯曲賞大賞を受賞し、他都市で注目を集めた作品。 新平和に続き、演劇で原爆を描いていく事の課題と可能性を模索する公演となった。 **■2018 年 10 月 13 日（土）～14 日（日）** **劇団こふく劇場第 15 回公演全国ツアー広島公演【ただいま】広島公演** 創設 25 年を数える劇団こふく劇場の、全国 10 都市ツアーの広島公演。 こふく劇場は 2014 年の「まあるい◎劇場」で初めて東区民文化センターで公演を行ってから、2017 年「境目」に続き、今公演へとつながる。「ただいま」は全国的にも非常に評価が高く今回の再演ツアーは「前回のツアーで行けなかった、広島といわきは必ず公演を行う」ことを前提に組まれたと聞いた。地道な活動と丁寧で緻密な仕事によって創られる彼らの作品は、確実に広島のお客様にファンを増やしており、前売りは両日完売となり、お客様からも大変喜ばれる結果となった。長い時間をかけて関係性を築いてきた大きな成果である。 **■2018 年 12 月 21 日（金）東区民文化センター舞台芸術促進事業付帯ワークショップ** **烏丸ストロークロック俳優ワークショップ【空気を探る】** 仙台発の気鋭の劇団「短距離 男道ミサイル」の俳優・小濱昭博氏による俳優の為のワークショップ。創作現場でのコミュニケーションの課題や違和感に向き合っている俳優経験者を対象に、小濱昭博の創作現場でのコミュニケーションの技の一端を様々なワークを通して、参加している一人一人が立場を明確にしながら、豊かな創作現場を目指すためのワークショップとなった。20 代前半から 30 代後半までの現場で創作を行う俳優が集まり、また、海外で演劇活動を行う俳優も参加しすることで、短時間ではあったが実り多いワークショップとなった。 **■2019 年 1 月 18 日（金）～20 日（日）** **烏丸ストロークロックと祭【祝・祝日】広島公演** 仙台・広島の 2 か所のみで行われた烏丸ストロークロックの新作公演。 仙台・京都・広島の俳優での集中的なレジデンスクリエーションにより創り上げられた。約 10 日間の合宿を安芸高田市でおこない、作品の中で重要な役割を果たす「神楽」を広島オリジナルで創作。前年度、集客に苦しんだ経験を活かし、先手先手を打った制作活動が功を奏し、マスコミからの注目度も高く、公演は両日とも前売りは完売した。具体的な課題点をクリアしたことは、制作団体として改めて東区民文化センターを拠点とすることの重要性を感じた公演であった。
その他	今年度は、前年度の報告書で課題とした「土日の演劇公演の集客」について、制作、劇団が意図的に打開策を打ち出していく事に取り組んだ。 結果、去年に比べ定量的に 1.2 倍の動員を行う事が出来、促進事業の 4 作品中 3 作品で前売りを完売することができた。 とはいえ、演劇の創客はまだまだ課題が多く、直前まで不安も大きいのが現実である。このことを劇団・劇場とシェアし、三者の協同があってこその今年度の結果だったと言える。 方向性としては、今年度で単なる受入れ公演に目処をつけ、地元の俳優や劇場とレジデンス形式で共に創っていく事を次年度からの新たな目標としたいと考える。

＊事業報告書を別途作成している場合は、添付してください。